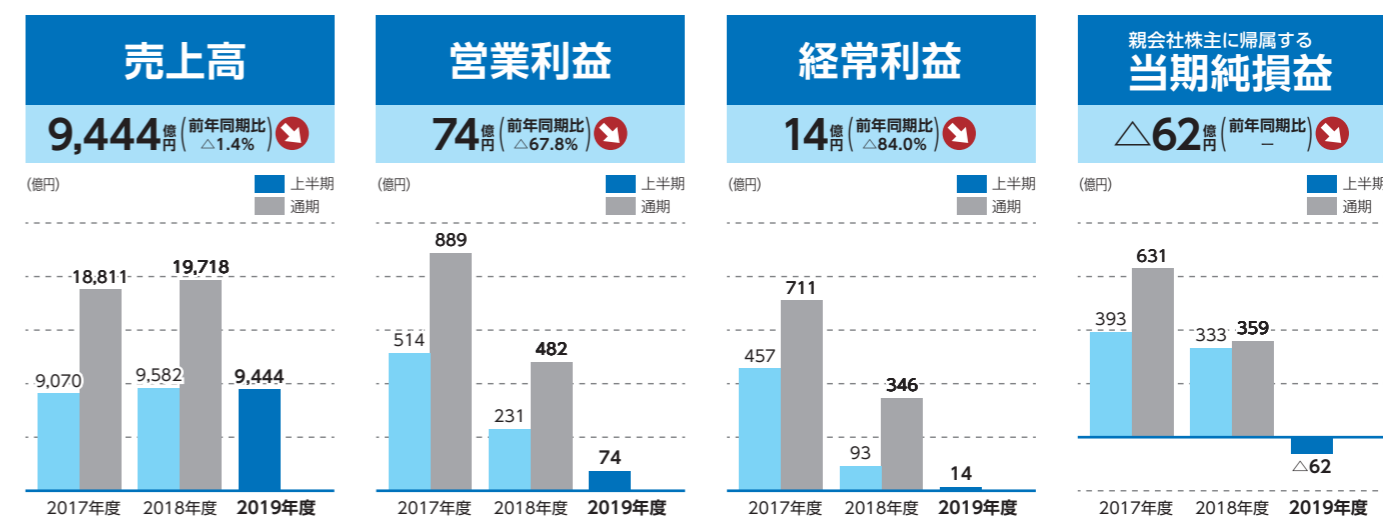


当期の概況

鋼材の販売数量は、海外自動車向けを中心に需要が減少し、生産設備の一過性のトラブルや自然災害による数量減があった前年同期並となりました。アルミ圧延品の販売数量は、半導体・IT向けの需要が減少したことなどから、前年同期を下回りました。銅圧延品の販売数量は、銅板条において自動車用端子や半導体向けの需要が減少したことなどから、前年同期を下回りました。油圧ショベルの販売台数は、地域によって増減があるものの、全体としては前年同期並となりました。

この結果、当上半期の売上高は、前年同期比137億円減収の9,444億円となり、営業利益は前年同期比156億円減益の74億円、経常利益は前年同期比78億円減益の14億円となりました。親会社株主に帰属する四半期純損益は、投資有価証券評価損を特別損失として計上したことなどから、神鋼不動産(株)の株式の一部譲渡などによる特別利益を計上した前年同期に比べ、396億円悪化の62億円の損失となりました。

業績ハイライト(連結)



事業別売上高(2019年度上半期)

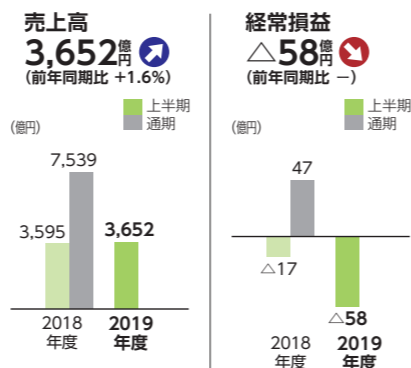


- 鉄鋼 38%
- 溶接 4%
- アルミ・銅 18%
- 機械 8%
- エンジニアリング 6%
- 建設機械 20%
- 電力 4%
- その他 1%

(注) 上記円グラフの各事業の売上高の合計から、各事業間の内部売上高等の消去額231億円を差し引いた金額が、連結売上高の合計額9,444億円となります。なお、各事業別の比率は、各事業の売上高の合計をもとに算出しております。

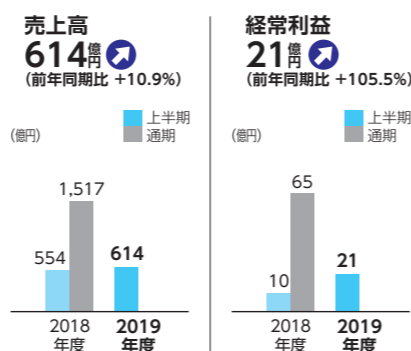
鉄鋼

加古川製鉄所 転炉工場



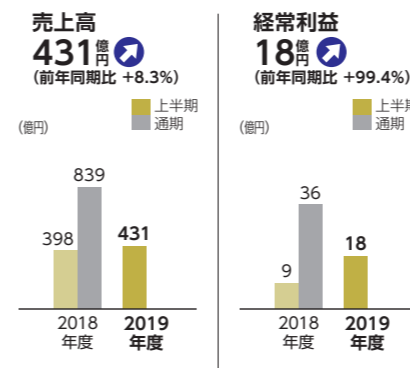
エンジニアリング

ジャカルタ都市高速鉄道 南北線



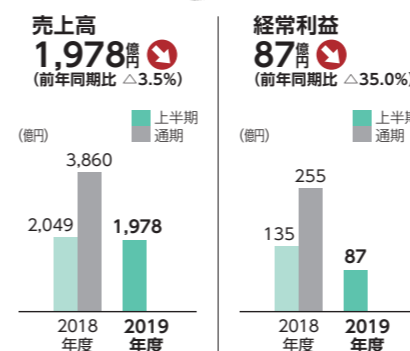
溶接

フラックス入りワイヤ (FCW)



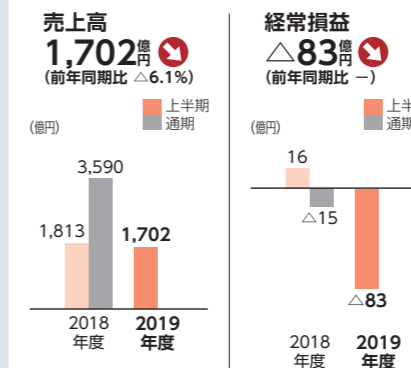
建設機械

テレスコピック クローラークレーン 情報化施工ブランド



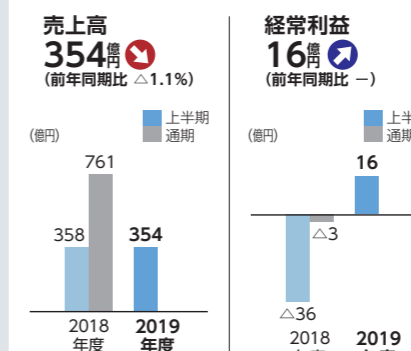
アルミ・銅

自動車端子・コネクタ用銅合金



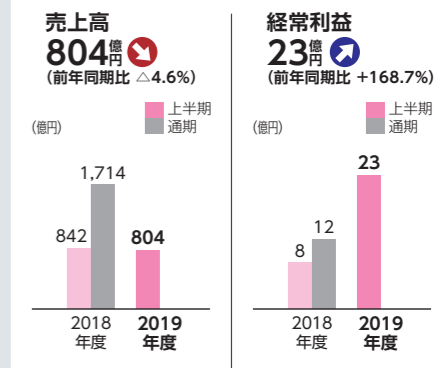
電力

真岡発電所



機械

汎用圧縮機「エムロード」



その他

透過型電子顕微鏡を用いた研究 (コベルコ科研)

